

# 市民と議会の意見交換会報告書

令和4年10月28日

白石市議会議長 小川 正人 殿

報告者 総務産業常任委員会(2班)

(班 長) 森 建 人

白石市議会意見交換会開催要領の規定に基づき、次のとおり報告書を提出します。

日 時	令和4年10月23日(日) 10時00分 ~ 15時30分		
場 所	白石市中央公民館 大ホール		
出席議員	(班長) 森 建人	(書記) 大森 貴之	小川 正人
	保科 善一郎		
参加人数	9人 (男 8人:女 1人)		
意見交換	【意見交換の内容】 ワークショップ テーマ: 避難所のあり方について  ※ 詳細な内容は、別紙「意見交換での意見、課題等」のとおり		

(別紙)

## 意見交換での意見、課題等

意見交換での意見、課題等

総務産業建設常任委員会（2班）

【テーマ】避難所のあり方について

### 【市民の皆さまのご意見】

#### 避難場所設置箇所の問題点

- ハザードマップの再検討が必要。（水害エリア内に避難所がある等の不具合がある。）
- 指定避難所 → ハザードマップでは浸水エリア → 垂直避難現場の方が安心。
- エリアが広いこともあり、避難所の箇所が少ない。（工夫が必要である。）
- 単に、集合場所を避難所として設定しないようにすべきである。
- 現在のところ浸水想定区域ではないが、白石川や支流が近くにあり、最近の降水量を考えると避難所の立地状態が不安である。
- 白石中学校、水害時に浸水し閉じられた。（水害時は他の所に。）
- 公民館が低いので、危険と思っている。
- 内水氾濫、垂直避難場所がない。

#### 避難経路について

- 避難経路が浸水し、避難が困難または不可となる事がある。
- 避難場所までの経路に危険箇所が多く存在している。
- 避難所の確認。（風水害、地震等）
- 周知方法。
- 住民の50%以上が高齢のため、避難行動計画について何回も集合時間を決めて、その流れを考えておくこと。
- 上郡山・郡山地区の避難所の場所（白石工業高校）は水害時に非常に危険。
- 上郡山斎川から東側の方々が避難する場合、白石工業高校までの「赤線」を復活してもらったら安心して避難できる。
- 現状の場所まで行けない方が出ている。
- 斎川から西側と東側で地形が違うので、避難の在り方を再検討。

#### 訓練・情報の活用について

- 自治会各班の班長が「地域を理解する啓蒙活動」が必要である。（訓練）
- 年齢の違いや状況により、対応の仕方がそれぞれなので、訓練が大切。
- 日中の避難の場合、小学校では児童がおり、職員の対応が充分ではないと感じる。
- 社会福祉協議会からの要支援者名簿の個人情報の活用について（深谷地区）
- 今年3月の地震時の避難所開設と安否確認の実例（深谷北区自治会）
- 高齢化社会の中で、避難所が固定されているため、地域住民はおおむね理解してい

と思うが、大切なのは発生時間帯により大きく変化すること。

○避難所内の連絡体制において、小・中・高の児童・生徒の取り扱いが重要。

○旅行者等、市民以外の大量の避難者に対する対応ができるのか。

### **避難所設備について**

○第一避難所の用具等の充実。

○電気・水道が止まることが大変である。（発電機の配置を確認しよう。）

○避難指定場所（深谷公民館）ソーラーのバッテリー設置、EV車の活用検討。

### **【まとめ】**

指定避難所が、ハザードマップ上では浸水エリア内にあったり、それ以外の場所でも近年の豪雨により、降雨後に使用できなくなった施設が生じたことも含め、ハザードマップの再検討が必要であり、作成に当たっては地元住民の意見を確認し、現状に合ったものにすべきであるとのことのご意見が大勢を占めた。

また、避難経路においても、危険箇所を通らなくてもよい動線を検討すべきであり、地震、風水害等の違いにより危険箇所も異なることが多く、避難場所への移動が困難、または不可となるケースも見られることから、避難所を増設して欲しいとの意見も多数寄せられた。

### **【今後の方向性】**

\*ハザードマップは現在、新たなものを作成中。（令和4年末までに作成完了予定）

\*避難所は地元の意見を確認し、漏水等の被害を受けない（可能性の低い）所にすべきと考える。

\*垂直避難が可能な施設も含め、避難所の増設が重要と考える。

\*避難経路の見直し検討が必要。（経路上の危険箇所の確認および代替え経路の検討）

\*避難所、避難経路については広報誌が主であるが、広報誌未配付の市民への周知と、電柱等に表示すべきである。

\*災害発生時の時間帯や、高齢者や単身世帯等の保護を考えるべき。

\*教員にも避難所での対応は伝達されているが、児童がいる時間帯では児童保護が優先されるため、両立する対応法の検討が必要と考える。

・日中帯は高齢者が多く、移動に要する人員等が足りないため苦慮する。

・夜間帯は「家族がいるから大丈夫」の思想が多く（体験不足）、家が一番と思っていることから、避難するタイミングを喪失することが考えられるので、適切な避難意識の構築を推進していきたい。

\*避難場所における（小・中・高）児童・生徒の協力をいただく方向で進めていく。

\*旅行者等、市民以外の方々の避難所 = 主に中央公民館（駅付近）等を中心に検討が必要である。

\*避難所ごとに用具の実態と過不足を調査し、適切な配備を推進していきたい。